

教育資料室だより

No.29 令和7年(2025).7.15

発行 桐生市教育資料室

桐生市小曾根町3-30(桐生市教育センター内)

電話 0277(46)6191

歩いて 見つけて 味わって

ふるさと探訪 (4)

桐生市内文化施設とのコラボ企画



第22回企画展
令和4年
6月4日(土)~10月2日(日)

**桐生は
アートで
できている**

桐生市近代化遺産 絹襴記念館

左は3年前、令和4年の桐生市近代化遺産絹襴記念館企画展「桐生はアートでできている」のポスターです。会場には、館長が自らの足で稼いだ桐生のあちこちの写真が展示されていました。普段、何気なしに通り過ぎている街並みの中に或いは建物のどこかにアートが佇んでいる。必ず目にしているはずなのに気付かなかった、気付こうとしていなかった風景、アートを発見・再発見、認識・再認識できた企画展でした。

今回は、その中からテーマを「彫刻」に絞り、幾つかを紹介します。どうして「彫刻」を？

未来へはばたけ山田製作所桐生が岡動物園南門前脇に女神像があります。第二次世界大戦前、ここには別の像が乗っていました。桐生織物記念館の前庭には石碑があります。やはり戦前、ここには高い台座の上に織物に縁の深い人物像が立っていました。

今年、2025年は昭和20(1945)年8月15日に終戦を迎えてから80年となる年です。昭和12(1937)年の日中戦争から始まる長い戦争による物資不足を補うため、昭和16(1941)年9月、国家総動員法に基づき勅令により金属類回収令が施行されます。その後、昭和18(1943)年8月の改正により強制力が高められました。この勅令に従い、全国で鉄・銅、青銅等の金属製品の回収が行われます。門扉や柵、寺の梵鐘や仏具、銅像などが対象とされましたが、戦局の悪化に伴い、次第に範囲が広がり、鍋・釜・洗面器等の日用品までも対象となりました。

上記2体の像もこの勅令によって供出されました。多くの小学校の二宮金次郎像がコンクリート製である理由もここにあります。

協力 桐生市近代化遺産絹襴記念館

参考 「桐生人物誌 明日に伝えたい桐生の人と心」

「画文集爺の語る昔の桐生 奥村初雄著 あさの印刷」

「国立公文書館デジタルアーカイブ 簿冊詳細」

「望」この原像は、昭和14年に木下繁氏によって制作された。その原像が昭和55年2月桐生市文化センターの落成記念に羽仁五郎氏から寄贈され、これを同56年9月ブロンズに鋳造して設置した。



「繭のらせん」 Spiral Cocoon
木戸 修 (Osamu Kido) 作
高度な数学的計算に基づき、ステンレススティールを用いてつくられた現代彫刻作品。
美喜仁桐生文化会館



「人間の問題」研究Ⅴ
平成20年12月 寄贈
桐生市役所旧庁舎
森産業株式会社
新庁舎脇へ移設予定
掛井 五郎 作



新風の門



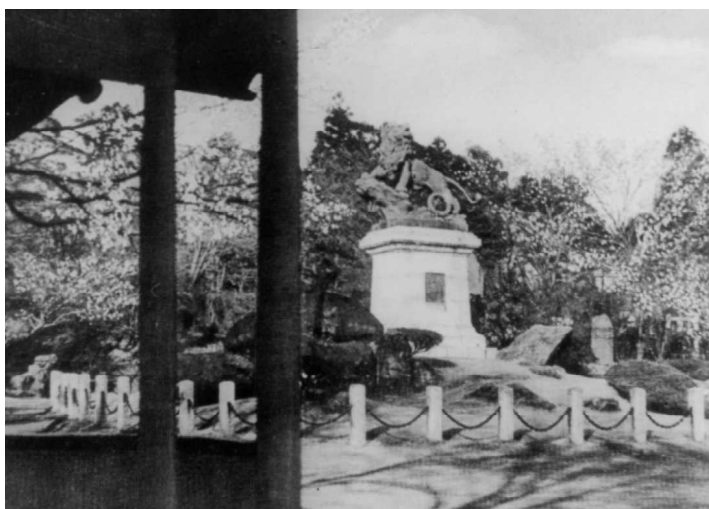
風の心臓



陽の織物

島田憲一 作 アルミニウム鋳造 昭和63(1988)年

3作品は桐生市本町3丁目商店街近代化事業完成記念として設置されました。作者のことは「自然と人間の営みがうまく調和し、ゆったりとした中にも何か活気があり、昔ながらの織物文化に加えて新しい文化を芽生えさせようとするそんな街にある空間と自然と古くからの伝統の中で生きてゆく作品でありたいと思います」『蘇り翔ぶ三番街誌 本町三丁目商店街振興会』から



ライオン像（獅子奮迅像）

日露戦争の従軍者は町内出身の戦没勇士の忠烈を表彰し、後世にも又伝えようと至誠会を作りライオン像建立に着手した。計画の実現は困難を極め6年の経過の後、桐生在郷軍人会が中心となって奔走し、明治45年7月7日除幕式を挙行するに至った。高さ3メートルの花崗岩台の上に乗るこの金銅製のライオン像はワートルロー丘上の獅子像、ナポレオン一世の戦争記念碑にヒントを得たといわれる。以後第二次世界大戦末期の供出に至るまで岡公園のシンボルとして親しまれた。

「思い出のアルバム桐生 天利秀雄監修 あかぎ出版(34ページ)」から引用

広場の左手の方をよく見るともう1体銅像が建っています。桐生の織物業の発展に寄与した買継商書上文左衛門の像です。これも供出されてしまいました。



彦部駒雄(明治18[1878]年～昭和10[1935]年)像

1926年織物同業組合長に就任。織物の振興に意を用い、品質改善、販路拡張を計画し、全国主要地で宣伝会を開催、需要喚起と業者の覚醒を促した。「桐生織物史」発刊にも関わった。

「群馬県人名大事典 上毛新聞社 昭和57」から引用

第11代目 書上文左衛門 (元治元[1864]～ 大正3[1914])

桐生最古の買継商書上家に入婿し家督を相続。家業を拡大充実させるとともに地域の発展振興にも尽力した。
「桐生人物誌上巻」
○右の像は雛形
郷土資料展ホール所蔵
(文化財保護課所管)





大正天皇即位御大典の時の様子 大正4年(1915)
左手の四阿「遊鳳舎」は同じ年にできています。



彦部駒雄像は昭和18年3月に供出されました。(前出「思い出のアルバム桐生116ページ」には、…出征兵士のように…襷をかけられた彦部像が大勢の人に引かれていく様子が掲載されています。)昭和27年7月、織物組合員其の他の有志により碑文だけが同じ場所に建立されました。



獅子奮迅像は女神像に変わりました。台座のプレートには「平和」と刻まれています。←



銅像除幕式 大正5(1916)年4月16日

『書上タイムス』第六巻第五号「書上文左衛門銅像除幕式」より抜粋
(前略) 式場は銅像を中心とし富士見四阿の辺りから獅子像の間の大広場を以て之に充て周囲には紅白の幔幕を張り廻らし入口には大國旗を交叉し、處々に五色の吹流し朝風に翻々として翻り万国旗の放射と共に威勢よし。建設委員事務所を旗亭と置き、知事以下來賓の休憩所は御大典記念遊鳳舎と幾多の天幕張を以て充てられた。一段低き円満寺は書上一家及び親戚知己の休憩所とし、又式場内には(以下略)。
「桐生織物と買継商」書上文左衛門家の300年―桐生文化史談会から引用